

船舶事故等調査報告書

平成27年2月5日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014門第86号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年8月1日 00時10分ごろ
発生場所	山口県長門市青海島南岸 長門市所在の仙崎港沖第1防波堤北灯台から真方位354°210m付近 (概位 北緯34°23.9′ 東経131°12.3′)
事故等調査の経過	平成26年8月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 ^{さかえ} 栄丸、11トン
船舶番号、船舶所有者等	YG2-7475（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	船底に擦過傷、推進器翼及び推進器軸に曲損
事故等の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、長門市湊漁港の定係地を離れ、山口県萩市萩港沖でのいわしすくい網漁の目的で、青海島南方の仙崎瀬戸を南東進していた。 船長は、単独で操舵輪の前に立ち、魚群探知機でいわしの群れを探索しながら手動操舵に当たった。 本船は、平成26年8月1日00時10分ごろ青海島南岸の岩場に乗り揚げた。 船長は、機関を中立とした後、船内外の点検を行い、浸水がなかったため、夜明けと満潮を待つこととし、一旦帰宅し、翌朝漁業組合が手配したクレーン船により離礁し、湊漁港に帰った。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
その他の事項	本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約1.5mであった。 船長は、本船が当て舵をしないと船首が左方に向くことを知っていた。 船長は、漁の目的地を萩港沖としていたが、そこが不漁の場合に備えて仙崎水道から目的地までの魚群探索を行うつもりだった。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象等の関与	なし

判明した事項の解析	本船は、仙崎瀬戸を南東進中、船長が、魚群探知機での魚群の確認に気を取られていたことから、船首が左方に向いて航行していることに気付かず、青海島南岸の岩場に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、仙崎瀬戸を南東進中、船長が、魚群探知機での魚群の確認に気を取られていたため、船首が左方に向いて航行していることに気付かず、青海島南岸の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 船位及び針路の確認は、前方の見張りを厳重に行い、レーダー、GPSプロッターなどの航海計器を適切に利用すること。